

## 市など試算

従業員の健康悪化で  
生産性損失は年76万円

横浜市と東京大政策ビジ

ヨシ研究センターは、市内の中小企業・団体の従業員の生活習慣と欠勤日数を調べ、健康状態の悪化に伴う一人当たりの生産性の損失額を年七十六万六千円と試算した。センターの村松賢治研究員は「高リスクから脱すれば、本人の生活の質だけでなく経済効率も高め」と指摘している。

六事業所の従業員計百五

十七人に昨年九月～今年二月、疾病の有無や喫煙習慣、仕事と生活の満足度など九項目を質問。健康上のリスクがある度合いを「低」「中」「高」に分類し、一年間の病気やけがによる欠勤日数と、健康な時を100%として「過去四週間は何%だったか」を聞いた。

欠勤日数と過去四週間の割合、賃金から年間の損失

額を算出。「低」五十九万円、「中」六十九万円だったのに対し、「高」は百七十二万円と大幅に上昇し、平均では七十六万六千円だった。市とセンターは今後、調査をした事業所に体操や食生活の指導などを実施し、生産性が上昇するか検証する。

(志村彰太)